

第 18 期事業報告書

(2024 年 10 月～2025 年 9 月)

一般社団法人 J E A N

海洋ごみ問題の解決にむけて以下の活動を行った。

1. 啓発活動

(1) 年間クリーンアップキャンペーン

ICC データカードは、海洋ごみの実態把握のための基礎データ収集ツールでもあり、日常を振り返り自分事化してもらうための啓発用ツールでもあると位置付けて、日本独自に通年で『ICC データカードを使った調べるクリーンアップ』を推進しており、今期は、キャンペーンに登録し実施することのできた活動のうち、88.6%にのぼった。

寄せられた実施情報・実施結果はデータベースに登録し、ウェブサイトで公開した。

以前は、秋（9-10 月：ICC/国際海岸クリーンアップ）と春（4-6 月：アースデイ・国際環境デー）のみがキャンペーン期間だったため、年間での展開に変更した時点で、それぞれを集中キャンペーン期間という位置付けにした。

① クリーンアップキャンペーン 2024・2025

第 17 期対象：2024 年 10～12 月、2025 年 1～9 月

登録数：236／うち、ICC データカードを使った調べるクリーンアップ：195

② 運営会場・神奈川県藤沢市鵠沼海岸（ハグライドパーク前）

2024 年 10 月 6 日（予備日程）／地元 3 団体と共催：47 名参加

2025 年 4 月 20 日／地元 2 団体と共催：95 名参加

③ データベースの運用

誰でも全国各地のクリーンアップ活動を知ることができるよう、寄せられた実施情報や結果をデータベースに登録してウェブサイトで公開した。

(2) 啓発用展示物の貸出し

① 海洋ごみ問題の現状を視覚的に訴えるため、展示用写真パネル 3 種類を貸し出した。

総貸出件数は 6 件、貸出日数は以下の通り

・「みんなの問題・海のごみ」

A1 パネル型：20 日間、A1 ロール型：28 日間、A3 ラミネート型：19 日間

・「美しい海を子どもたちへ ～東日本大震災に起因した漂流物と海ごみ問題～」

A1 パネル型：なし

・「新たな海洋汚染マイクロプラスチック」A3 ラミネート型：なし

② 「漂着物のトランク・ミュージアム®」は老朽化で解体したままだが、後継セットの作成について、引き続き可能性を検討した。

(3) 講師・委員派遣

10/3 公社)食品容器環境美化協会「環境美化教育優良校等表彰審査委員会」

10/27 香川県「海ごみリーダー養成講座」

11/7 公社)食品容器環境美化協会「環境美化教育優良校等表彰審査会」

11/18 対馬市「令和6年度第1回対馬市海岸漂着物対策推進協議会」

1/25 特非)宮古島 海の環境ネットワーク「海と自然の勉強会『海ごみ勉強会』」

1/31 公社)食品容器環境美化協会「環境美化教育優良校等表彰式」

2/17 対馬市「令和6年度第2回対馬市海岸漂着物対策推進協議会」

6/13 国土交通大学校「専門課程 海岸研修」

※この他、沖縄県海岸漂着物対策推進協議会において、委員およびワーキンググループ構成員を委嘱されているが、当該期間に委員会等が開催されなかった。

(4) 画像の有償貸出し

放送番組制作会社の依頼で、海洋ごみによる生物被害の画像を貸出した。当該制作会社には過去にも貸出し実績がある。

(5) 資料販売

以下の資料を引き続きウェブサイトで販売したが、キャプテンマニュアル、海辺のカルテシリーズは一定の引き合いがあった。キャプテンマニュアルは在庫僅少でもあり、ICC データカードの2023年改訂にあわせたリニューアル版の発行作業に入った。

- ・「クリーンアップキャンペーン キャプテンマニュアル」
- ・「(2016までの) キャンペーンレポート」
- ・「第2回都道府県における海洋(海岸漂着)ごみ問題への取り組み状況把握調査報告書」
- ・海辺のカルテシリーズ「海辺のカルテ」「海辺のカルテ 漂着物ワークブックこども用」
- ・DVD「ゴミ箱になった海」「人工の海」

(6) 資料配布

啓発用リーフレット、活動紹介リーフレットを配布した。啓発用リーフレットは、情報更新のためのリニューアル版作成作業に入った。

2.調査研究

(1) 自主調査

ICC データカードを使って各地で継続的に行われている市民調査の結果は、実態把握のための日本の基礎データとしてデータベースへの蓄積を継続している。『ICC データカードを使った調べるクリーンアップ』として展開することで、年間の結果が集まるようになった。

(2) 外部との調査協力

特段、調査研究の協力等の活動はなかった。

3. 国際協力

(1) 活動への参加と情報共有

「International Coastal Cleanup (ICC) / 日本名：国際海岸クリーンアップ」のナショナルコーディネーターとして、9～10月に国内でキャンペーンを展開した。今期、この期間に ICC データカードを使ったクリーンアップ活動は 110 件で、寄せられた調査結果はすべて、日本の ICC データとして国際データに変換し、1 月初めに呼びかけ団体であるアメリカの Ocean Conservancy(OC) に情報共有した。

2024 年の ICC レポートによれば、118 の国と地域で 486,045 人が参加したとある。

4. 情報の収集及び発信

(1) ウェブサイト

適宜更新し、活動や海洋ごみ問題について発信し、寄せられるクリーンアップキャンペーンの実施予定と結果などを紹介した。

(2) フェイスブックページ

活動を紹介する公式ページと、インターネット上に流れている海洋ごみ関連の情報から、先駆的かつグリーンウォッシュに当たらない情報を客観的に掲載するページ「海ごみプラットフォーム JAPAN」を運営した。

(3) 機関紙

「美しい海をこどもたちへ」の発行は内容の再検討が必要なため休刊中だが、郵便料金の値上げや社会状況の変化から、別の形式で発信することを検討している。

(4) 海ごみサミット

2016 年以降、企画されない状態が続いているが、JEAN 前代表理事が代表理事を務める全国川ごみネットワークの川ごみサミットで海洋プラスチック汚染を扱っていることから、理事団体としてコラボレーションの可能性を提案している。

(5) 海ごみプラットフォーム・JAPAN

今期は企画しなかった。

(6) 取材対応・原稿執筆

- ・北海道新聞社からの取材に対応。
- ・全国の高校生が海の課題に立ち向かうコンテスト「うみぼす甲子園」ファイナリストの高校生グループからの同世代向け教材作成のためのインタビュー取材に対応。

- ・市民活動サポートセンター・アンティ多摩「市民活動のひろば／特集：プラスチックを減らす」に執筆。

(7) その他の情報収集、情報交換など

- ・公財)かながわ海岸美化財団「2025 ハイブリッド交流会(海ごみセミナー)」出席
- ・九州大学「海洋プラスチック研究会」「環境プラスチック研究会」聴講
- ・豊の国海幸山幸ネットと情報交換
- ・認定特非)環境市民と情報交換

5. 政策への提案

- ・対馬市海岸漂着物対策推進協議会にて委員としてアドバイス・提案等をおこなった。
- ・環境系活動団体のネットワークを通じた海洋プラスチック対策推進のための意見表明に、参加した

6. その他

(1) 他団体との連携・協力

- ・「全国川ごみネットワーク」の理事団体として、河川から海に流出するプラスチックの問題に共に取り組むべく参画している。

(2) 活動資金の調達

営業はしていない。海洋ごみ問題が認知されてきたため、先方からの寄付打診がある。

事業収入が限られている中、企業からの寄付に頼らざるを得ないので、継続的な寄付を促すために、企業ごとに適した対応や報告資料の充実に努めた。寄付システムの変更、売上や誘引数の低下などで減る傾向がみられる企業も複数ある。

- ・プラチナパートナー：3社（新規0）
- ・ゴールドパートナー：13社/者（新規1）
- ・シルバーパートナー：13社/者（新規1）

(3) 受託事業、助成活動等

- ・事業の委託は無かった。
- ・地球環境基金への助成金申請を準備したが、中止した。

以上